



経営

育休取得は能力開発 会社にもメリットがある



中田工芸株式会社
代表取締役社長
中田修平さん

米国留学を経てアメリカの企業に就職した後、2007年中田工芸(株)に入社。東京のショールーム「NAKATA HANGER」の立ち上げと運営に携わる。17年に3代目社長に就任



中田さんが思う

育休取得が会社にもたらすメリット

- ◆育休を取る人の業務の引き継ぎを通して、業務の整理、見直しができる。
- ◆予測不可能な育児をマネジメントした経験は、管理能力や先を読んで行動する力の向上につながる。
- ◆男性社員が育休を取り家事・育児に協力することで、社員が妻に感謝されるとともに「家庭生活に理解がある会社」として妻が会社を応援してくれることが期待できる。

育児休業の取得と復帰のサポートという視点から、誰もが働きやすい会社作りに取り組んでいます。社員にその意気込みを表す意味も込めて、第2子の誕生後、私自身が1カ月間の育児休業を取得しました。

育休取得は迷惑と思われがちですが、事故や病気のような突発的なことではないので、業務を引き継いでおけば滞りなく仕事は回る上、会社にとってのメリットになると考えています。リーダーシップを発揮して社員にそのメリットの理解を促すことで、育休を取得しやすい会社作りに努めます。



家庭

仕事も家事も 1人に任せるより2人で手分け



東海バネ工業株式会社
坂井健次さん
幸代さんご夫婦

健次さんが尼崎から豊岡に転勤し、当時から働いていた幸代さんと出会う。幸代さんは会社初の産休・育休を取得し復帰、現在は9歳の娘と3人暮らし

出産を機に退職する選択肢は？

☞働き続けたいと思っていましたが、産休・育休の前例がなかったので悩みました。上司に相談すると取得を後押ししてくれたので、1年育休を取り復帰することにしました。上司が「帰りを待ってるよ」と声を掛けてくれ「居場所があるんだ」と実感できたため、復帰もしやすかったです。

会社のサポートは？

☞会社が社員の私生活の充実も真剣に考えてくれており、残業がほとんどありません。その上終業時間になると上司が「早く帰りな」と声を掛けて

くれるおかげで、学童の迎えに問題なく行けています。学校行事などで仕事を休むときに同僚が理解を示してくれることもありがたいです。

2人ともフルタイムの生活、家事・育児の協力は？

- ☞生活する中で、自然と手分けをするようになりました。私の帰りが遅くなった時には夫が食事の用意や洗濯物の取り込みなどをしてくれます。
- ☞家事は大変ですが、その時にできることをしています。互いに自分の時間を作るためにも、2人で効率よく家事をするのが一番です。



川見さんの

プチ勤務で働くことのメリット

- ◆家の外で感謝の言葉をもらえると、社会の役に立っていると実感でき、自分に自信がつく。
- ◆短時間・少日数勤務なので、小さな子どもを持つ母親にとって働き始めるハードルが低い。
- ◆子どもが大きくなってからいきなりフルタイムで働く不安を、子どもが小さいうちからプチ勤務で働いておくことで軽減できる。
- ◆24時間子どもといるとストレスがたまるが、仕事をすることで気持ちの切り替えができる。

「プチ勤務」の制度で 保育士に復職

社会福祉法人豊友会
テラスハウス保育園保育士

川見良美さん

5歳と3歳の娘の母。大阪で保育士、三田市で医療事務員として勤務し、2013年に結婚を機に豊岡に移住。専業主婦を経て、今年4月からプチ勤務で10年ぶりに保育士として復帰



2年前から仕事を探していましたが、子育てをしながら働きやすい条件の仕事が見つからず「働きたいけど働けない」状態でした。そんなとき、紹介してもらったプチ勤務の相談会で今の職場と出会い、1日4時間、週3日の勤務で保育士として復職できました。

プチ勤務という働き方を導入してくれた園と、急な休みや短時間勤務を理解してくれる同僚のおかげで、無理なく家事・育児との両立ができています。今後は子どもの成長に合わせて、日数や時間を増やして働き続けたいと思っています。

地域

女性が発言できる 「場」を大切に



日高地区コミュニティ「きらめき日高」
会長

西村 勲さん

「きらめき日高」は2016年12月設立の日高地区を区域とするコミュニティ組織。集落数18区、人口7,637人、世帯数3,018世帯で、高齢化率は28.9%（19年4月1日）。19年度から西村さんが会長に就任



きらめき日高は、地区での共通の課題を解決するための組織で、誕生して3年目になります。

設立するに当たり、組織の在り方や規約などを検討する設立準備委員会を、2015年12月に立ち上げることになりました。当時、区の役員といえば男性中心。しかし、女性の公民館主事から「女性がいないと女性目線の相談ができない」との声があり、委員は20人中7人が女性でのスタートとなりました。そして、設立準備委員会を重ねる中で、会議に女性がいるのが当たり前になってきました。

地域の課題を解決するには、男性だけでなく女

性の意見も必要です。そのため、きらめき日高では、女性が声を出せる場を大切にしており、役員や事業の企画係員は共に約3割が女性です。

男女が話し合うことで、多様な問題を共有できますし、それを解決するアイデアも生まれます。17年から始めた「日高ふるさとまつり」には、全18区が屋台や作品展示、ステージ発表などで参加し、昨年は約1,600人の来場者でにぎわいました。

災害や福祉など、課題はありますが、男女で話し合える場を大切に、共に助け合える地域コミュニティでありたいと思います。